

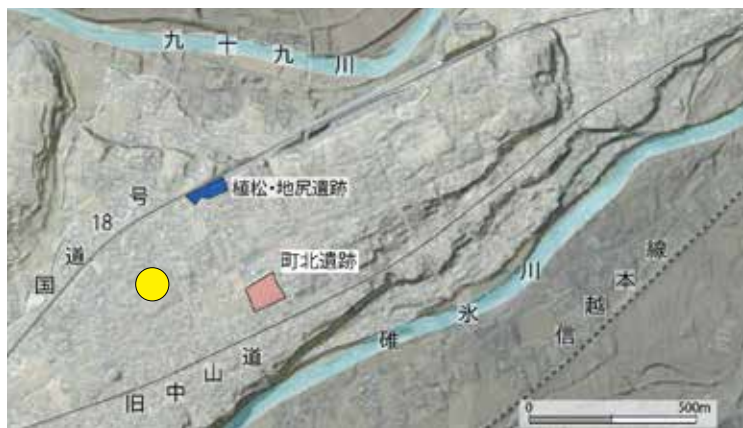
# 新たに遺跡が発見されました



## 今も昔も交通の要衝 安中市

安中市は古代の東山道駅路(※1 以下、駅路)、近世の中山道・近代の信越(本)線・現代の国道18号など、古くから関東と北信越をつなぐルートが通っていました。

そのほとんどは町北遺跡がある台地上を通っていることから、この周辺が交通の重要な場所、安中市の「中心地」だったことがわかります。



町北遺跡周辺の地形図(●印は市役所の位置)

## 町北遺跡ってなに？

この遺跡の周辺は、安中2丁目の中の「町北」という地域(=字)にあるため、町北遺跡の名称がついています(市が行う発掘調査では、遺跡に字名をつけることが多いです)。

調査の結果、飛鳥時代(7世紀ごろ)につくられたと思われる駅路が見つかりました。東山道が安中市内を通っていたことは、これまでの研究などからわかって

いましたが、実際に遺構として見つかったのは初めてです。

また、そのほか奈良時代(8世紀)の公的施設に関する、大型建物2棟が南北に並ぶように見つかりました。このうち北側のものは駅路の上に建てられていることから、この時までには道路は廃止され、どこかに移されていたことがわかりました。

※1 東山道駅路…「東山道」は上野国(=いまの群馬県に相当する地域の旧名)など、飛鳥時代に国家が整備した行政区分。「駅路」は、その地域内の国府(=現在の県庁など)と都を結ぶ全国的な幹線道路のこと